

# 病院年報

Vol. 20 平成21年度

静岡市立静岡病院

## 静岡市立静岡病院の基本理念・基本方針

### 【基本理念】

開かれた病院として、市民に温かく、質の高い医療を提供し、福祉の増進を図ります。

### 【基本方針】

- (1) 患者さんを主体とし、患者さんにとって最前の全人的医療を実践します。
- (2) 静岡市の基幹病院として、高度専門医療を提供し、その向上を常に図ります。
- (3) 市民の安全を守るため、二次救急医療、救命救急医療を提供します。
- (4) 地域医療の充実のため、病診連携、病病連携、保健福祉機関との連携を図ります。
- (5) 職員は、研修、研究、教育を通じて医療水準の向上を図ります。

# Act locally, think globally

病院長 島 本 光 臣

楽観的にみればメディア上も地域医療崩壊から地域医療再生へと言葉は変わりつつある。医療の質向上とアクセスの確保は公的医療費の財源確保を意味する。医師・看護師・医療職の増員、診療報酬の改善などは勿論であるが、現在の人的資源のままの地域医療再生方法論では集約化と連携が対峙する。どの医療機関も集約される、あるいは切り捨てられることは望んでいないにしても、国民皆保険制度のもと非営利医療機関主体の医療提供制度を保持するためには、集約化と連携両者のバランスを考慮しつつ、どちらかを選ばなければならない局面はある。しかし地域の行政が集約するというなら行政にははっきりと初めから集約化の宣言と説明する責任がある。地域により、また時間の流れにより状況は異なることは当然であり、また地域住民の承諾が必要である。いきなりの集約化は医師を始めとし、医療職にあまりにも大きな犠牲者が出ることは容易に予想される。生活としての術と誇りを持てる、やりがいのある病院を求め医療職数は病院数  $1 + 1 = 2$  の医療職数を成立しない。集約化を我々が目指すことは非常に困難で、我々ができることは地域の切れ目ない連携にある。

あえて言えば地域連携という言葉に甘えることなく、連携を支える根本である静岡病院自体の医療の質向上努力を行うことが我々に課せられた地域医療再生の基本であり、かつ連携の絆は他者からの信用であることを忘れてはならない。

これらの連携の促進と質向上のためイージーイーツェットを提案した。基本コンセプトは“誰も置き去りにしない連携”と“情報の責任者は発信者と受信者に”であり、キーワードは“信”である。

まず診療所と公的病院から始めるが適切なセキュリティーレベルセキュリティーが保障された会員制のFAXと既成のインターネットを用いたメール機能をもつ情報道路の構築である。将来的には情報通信技術を活用した地域連携クリチカルパスの策定や、医療施設から介護施設までのデーター共用を可能にする体制を組む。公的病院と他施設の連携を生活習慣病だけでなく2次医療圏を基本とした地域医療連携ネットワークで取り組む在宅での医療と介護の共有すべき情報も自由にやり取りでき、2次医療圏を超えた地域連携ネットワークにも発展できる。これを支えるのは患者さんと他施設からの信と尊敬を得る努力であることを肝に銘じてほしい。



# 〈目 次〉

平成21年度年報発刊に寄せて

## 病 院 概 要

現況	1
組織図	2
職員配置	3
病院日誌	5

## 管 理 業 務

病院総務課	11
総務担当	11
企画経理担当	14
病院施設課	17
施設管理担当	17
物品管理担当	19
治験管理室	20
病院運営機関・各種業務委員会	21

## 診 療 業 務

医事統計	41
医事課	41
病歴室	44
診療科の現況	52
部門別概況	76

## 教育研究実績

学術業績	125
著書	125
論文・誌上発表	125
演題発表	126
講師（講演、研修会など）	137
座長・司会	140
その他	142
静岡新聞「診察室」回答	142
放射線技術科研修会	142
検査技術科研修会	143
院内教育行事	144
静岡病診がんカンファレンス	144

救急医療セミナー .....	145
第27回院内看護研究発表 .....	146
公開講演会などの活動 .....	147
海外研修・国際交流 .....	153
<b>さまざまな活動</b>	
病院厚生会 .....	155
静病あおい会だより .....	155
患者友の会の活動 .....	155
病院ボランティア活動 .....	158
<b>職員名簿</b> .....	159